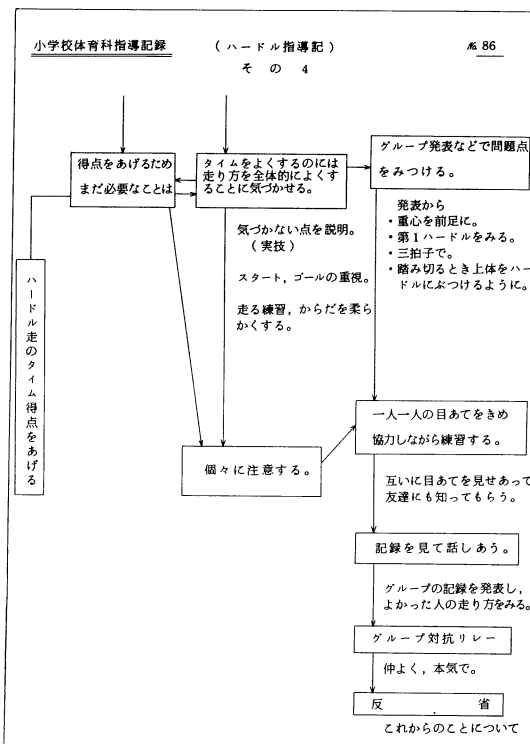


④学習問題と指導事項
そして児童の活動の
関係づけと明確化に
努めた。

(二)指導の視点
五十メートル間のハ
ードルの数をかえたタ
イム計測競争によつて
タイム差から一人一人
の問題点を見つけさせ
主体的なおう盛な運動
をさせた。

(三)指導過程
一単元を四時取り扱
いとし、各時の時数を
示した。



五、指導後の考察と追求

◆うまく跳べない理由

①バランスをくずす(原因)

- 振り上げ脚と同じ手が前にでる
- 身体が障害を通過した後で体側面より後方まで腕をまわしすぎる
- 着地足が内側に入りすぎる
- 爪先を伸ばしたまま着地する
- 視点を動かす

②高く跳び過ぎる(原因)

- 踏み切り地点が近すぎる
- ぬき足の下腿もとすねが下がっている
- 股関節が開かれていない

③腰が落ちる(原因)

- 振り上げ脚を伸ばしたまま振り上げる

●必要以上の上体の前傾がある

④両脚をほとんど同時に着地する(原因)

- 股関節が開かれていない
- 踏み切り脚を最後まで残さない
- 授業を構成するのは教師である。ま
- ず効果的な授業を組み立てることがたいせつである。この指導が終わったとき、わたしは満足感に浸った。その満足感の内には技能の向上はさることながら、一人一人の児童が意欲的に取り組み追求していこうとする姿、そこに指導の手をさしのべることが容易にできたこと、学習が終わっても、グループで、ときには個人で練習に励む姿が続いていたこと。……こんな時、教師である自分を厳しくひきしめるものである。こんな日々の連日でありたい。